湖月抄

九

松平定信藏書
石瀨文庫

藤　巻の名歌をあつめて是を作る歌やうの人のうたせるあり

[illegible]（源内侍）[illegible]

八十郎人まろどてあひと源氏　源氏物語一巻[illegible]二巻の三月と

の事あり花の宴乃巻よ十九歳の三月とあり長恋の君よ十

九巻の四月より廿歳の年中のものがたり世界よ朱雀院乃

受禅冷泉院の立坊弘徽殿の大后奇文奇院の卜定源氏

の任大将かどの事ゆゑ[illegible]花香み乗し

世中うつりて　河　相国の帝位

をさゝせ給ふ　細　同巻る

よ相国の位を朱雀へゆづり

うつりて世事花宴あれ年ち

ぢ八去年のすかりくしを巻

のかゝれ巻よこうどかりのを

ちひるんのはんづひちくと

あれで去年花の宴乃

夜桜のうつりてべき院

うつりぬ　細　朱雀院の

代嫁られバ源の文帝の代

みくりさ故よりうつりぬ

よ世わりやうみとなれす

たく盃相国は在位の河乃

やうに源のうつりあるべ

うつりうまく師源氏のん

とまさ地よりく

[illegible]の[illegible]

細　源氏乃[illegible]

[illegible]

世中うつりて　源氏[illegible]

のやむごとなきことをみるやうぐちきれ去の

びわりきをつくまうして　細　六条院　皇子なりくこと

うけきれるげうさをとうね給ひくひるや秋をれ　源氏の

よつまるうさ人のれ公をつきをびのこ地なり

細　友つね　元時

ぎく今ハうてひやうぐうぐ人のやうみくをひ

おつまれを今　砂もう院と歌つなのれ間のるをふ　いまさ

うちよのこうふくひるべ人いをるべ人なうんや

をとげうり　相国上皇の代事

どとこのうう世のをぐづらをせもつ今

の世かり結しをめでうう　内侍　冷泉院のうく　去文　源氏

まううひうをうく結れううこのなうを結

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今人まして　細　帥院院　[illegible]　帥　[illegible]

よ帥ひまなきとき　時日　帥　[illegible]

[illegible]人のやうにて[illegible]

いま后ハ　細　仏像殿　[illegible]　花　紫雲院　帝位の[illegible]

内よりの御[illegible]　花　紫雲院　帝位の[illegible]

右衛門　女帥の中宮よりかりめれ　[illegible]　細　右衛門ハ[illegible]

[illegible]

今のかりそめ　細　法華　[illegible]

[illegible]　細　冷泉院　立坊の[illegible]

[illegible]　細　[illegible]　花　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わさちかの姫君　細桃園乃
或アヽの女也つるよ源よ殿こそ
ゝさかゝして給後のし人
し れ 息所のゝくゝそ　ゝ
ゝ 人 桂の右ハ第ゝの君ゝ人
のゝゝ　ゝゝ　ゝ
一ア の内 れ 真女ハ 桂 姫 君 と 空
蟬 と

ゝ　ゝ　ゝ　

人々〻と　細人々〻と云人々〻の事と人

こもいの日　細歌院と下定して二度の祓云中二度の祓云中

四月は所社々々に詣て二度の祓云中の第は去日を云

りの日なれを二度の〻〻と云て中の酉の日賀茂の社へまゐりて

ひまゐる毎年に祓は正月は日吉と伊勢と

まて物詣はいろ〻の人の事は物詣

ひとの二度めに〻〻と云り。そ所は物詣のこと

大納言中納言ことあるこ供奉に毎年の祓は一向に使を

八大納言中納言二人参議二人四位五位六位四人凡て十二人の勅使

源氏大臣は参議二人の中〻〻これを以てこれを云

さものく

物〻〻〻〻〻〻〻　細人〻〻物〻〻〻盃容貌美麗なると物使は立〻〻せ

下〻〻〻の名　細〻〻〻のこれの日は源装束と云て下襲衣の袴と云〻〻は用〻〻花御

祓の日は物使云御は源装束と云て唐鞍或は和鞍を用者葉と云〻〻

〻〻〻〻〻〻〻〻　細大臣供奉例花宮〻〻〻〻〻花宮史云見觀三年四月十二日西辰賀茂

之齊内親王臨鴨水修禊是月便入紫野齊院勅大納言正三位兼行右近衛大將源朝臣

定監禊事〻〻〻齊院御禊大將供奉例也

物〻車公〻〻〻〻〻　細禊と別て〻〻〻〻〻〻〻〻

ゆきてゆくさまなどいとあはれなり　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
海つらの所のわらはなどのいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
そのうしろにつづきてこれもいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
房車ばかりにてゆくさまなどいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
さぶめくこれもいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
もとのなりなれどもいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
めるよいうしろにいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
もとのごとくなどいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
ばかりにてゆくさまなどいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
こしうしろにいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
どもとべきさまなどいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
ぬくまもなくいとあはれなり　細　菱の上の御ふねのことなどいとあはれなり
ばかりにてゆくさまなど

それ大今となりて八ちゝねの
ふとなりてゝ俄なる嘆乃
さ面ありくゝ如く
人ゝ　河　人給 後国ゝ記
侍記有此名お車をゝ人給
八宗智也　乱お車とハ公方
ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ
ゆゝ人給ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ
車ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ様ゝ

なうなげかるる

（山吹）

げんじのこえてしげのつまかけよりあれ

（子の侍の子孫の）（おれ息所の車）

さ程でいとゞ心をつくべきと源のこゝろを人乃

（源氏の）

の四つ葉をひろう女房をあつめ

（源氏のおもと）（栄ある）

うらをうらゝにあるをしたゞめをわやかなるれさ風

（物語の人の）（柏木息所のおもと）

うちのいとゝ

（源氏の）

ふんけつ

くべと

（供人の人の）

のあらさ風いとゝうとくのへうちとゝゆる

（物語の人）

かりあをと上遊びていとゝかなる紙ひとゝこ

（西風）

ろのれひろうとゝ

（物語の人）

うのずいぎんよ

（えんぎ）

あとのぞうけどのもとうと

いつねのことあをめゝびゝ

（ゆうぎ）

のあり

（行幸など）

ぎかなる紙をふいたをの

（物語の人）

（ぞう）

（山吹）

（源氏）

（源氏）

（源氏

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とけちらくとハなりぬる
種の貞女なるもしるし 細盃
れわらくなりちらくよりちら
細 菱上ちこのちく命ちり
をちりてちらくよりなきち
ちらく命れもの御息所の
あちりへちるちらくちてよく
しちるちちとちてちちの子も案
ちちらく 呼 左大臣殿の家
風とのさまり
ちりちらくなしも 菱ハちち
うよれ息所をれちてちち
よりちんとハちちちふまりられ
日比ちちの中よりなちちり
つちとちのちもちちりぬを
ちのれ公よりちらいて法くの
方よりちぬ人ちのちりす
ちちんとく
前文のちちりの文よ
細ト定あちちく左馬のか
ちちよ入道へちきをちちちす
ちちて求りちの六条京極
の六よりおりちまちすちと 呼 同

あちちひちのび世ちち人ちちんばちく
ちちちちとちちちち

ひさうそう　ひさうそう　ひさうそう　ひさうそう　ひさうそう　ひさうそう　ひさうそう　ひさうそう

なでまひて　ひさうそう　ひさうそ　ぎ　ぎ　ぎ

どやとゝ物へ山ゐ屋にて
た右のゐ情よゐ六月の頃
射の附中ゆ待の若庭もろ
所く葵殿の葵六門の附を
ゆ陣にて一条と五へとと
ゐよ作くた葵の山殿の祇
とわくゐく
所さりきそんと　孟　源門伯
わ所とさりてきまんと
いるゐりきりのゐんと
源ゐく車の中ゐれハ源ハ四ま
伯門伯とゐりゐわく
くくゐりや　細　葵ハ逢とゐ
ゐおゐんくゐりゐ祇のゆと
と伯ゐりくハくゐの葵の後と
てそ祇ゐりくよ人よ四東ま
ま中ゐ教よりゐりくく時日
ゐのの四よハ　細　引ゐ手ゐ
ゐハ祇多よ逢ゐりゐのく
孟　引ゐなくてもゐハゐふ教ゐの
四とハ今の葵よ付てゐくゐ
ゐ祇のゆりくと伯ゐくくりと
ゐ人のゐあとさくゐ源氏ゐ
也ハ心ゐくゐりあくゐ源ゐや

いぞく人とまの
ゐぬ所さりゐそ
ゐきりのゐくゐ
ゐくんとくくくゐりハくゐ
わくりなれハ源の車を
ゐりとくゐぞく
暁　祇殿の踏とわくゐ
ゐる殿の四ゐ
四伯ゐ
くりなくりや人の四車をゐくくくゐ
ゐりのゐくと伯ゐ
ゐくくくくゐと
とゐりいづ也ハゐの源ゐいくけりくりゐ
孟　雛　舊
さゐくくりゐりゐ
ゐけりくれゐゐゐゐ
くくゐ
源
りゐくけりゐ

源ゐくゐくゐ
ゐ源ゐ
細　源の後ゐ
孟　逢　四伯
孟　逢　日
人と四車をゐくくくゐ
孟　逢　日
細　源の後ゐ
細　盃　日
四伯
源ゐ
源ゐ
ゐくくくゐ
ゐくくくゐ
ゐくくく

世界の人異く源内伯よハ拙す盃中渋日の源の山邪実く出ゆくせーよ〻〻折紙て地〻人絵之
いぢ半〻〻〻ぬ 細 源のゆく 詞 三文字屋清次郎 ゆくり〻〻ぬ人と手〻〻みゆつとゆゆりもく
ぐーわ〻〻ひる 源内伯ハ人のゆぐせゆる養〻〻〻〻みゆ源氏ハゆぐーゆゆりんぐであくよるど
後〻つーあ〻〻ひゆ〻〻〻を源のゆゆゆゆとゆ〻〻
〻〻ぐ〻〻〻ゆゆせ〻
五奥よゆゆゆ〻〻
〻〻〻よれと〻〻〻〻ぬ今〻〻
宗紙云不審紙出 源内伯ゆゆゆ
〻〻面つ〻〻〻人〻〻〻ぬ
別の女草よ源氏〻〻寺
なと〻〻〻〻と業の上
と四車ゆ〻〻よゆゆまれ
てゆ〻〻ゆゆ人〻を
ぬ〻〻 畔 源内伯ハ地を
ゆ〻〻人也さ〻〻ぬ人も
〻〻あひの〻〻る人よ
〻ぐ〻〻てと〻〻〻〻
ゆ〻ゆ〻〻盃日市金ひの〻
〻〻〻〻まれてと市よ
雑〻〻んの〻〻〻〻人皮
〻〻ぬ〻と行〻〻〻〻
〻〻と云〻ひ雑て
〻の人〻〻と人〻〻〻
源の霧中〻〻〻しゆ〻れ

奥市の〻〻〻と人〻〻〻〻
人〻〻
〻ひ〻〻〻ぐ〻〻 細 河海ハ
異ひ〻〻と〻〻極上〻〻
〻〻れ〻〻 細 寺物〻〻
〻〻〻〻あ〻〻
引物之伊勢（下向北条氏
一を定め〻〻絵〻〻〻
源氏の海よ物〻〻る海の
〻〻〻れや〻ひ〻〻を定
め〻〻〻〻〻け〻物汁の長
物〻〻〻と〻〻〻汁の流も
〻〻〻〻〻〻〻〻〻
盃中奥市の伊勢（〻〻〻〻
〻〻〻と〻〻〻〻〻〻
〻〻〻の〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

神のこゝろやり　細　山の井のあさくやは　神のこゝろやいかゝとゝぐりてゐるを
きゝてこゝろぶしさてあるこゝろにて　絵ほんの心ざしのあるゆへなりしを　神今を
斎宮のこゝろ　細　源氏方　あさみやは　人心ばかりにもゝかこいあるもそ
あさましきやの　師　源氏の君　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
ものをもつまでいかゝ　ものをもつまでいかゝ　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
うちの君ちとゝ　云ハそゝろ　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
よハ神あるゝとあるハ伝の歌　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
きゆゝこゝれハ神こゝろまハ　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
ちをゆもあるゝとゝ　侍　絵の題者のこゝろ　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
絵の題者のこゝろ　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
若ちけ　細　大紙のゆゝ　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
まちてもゝ　菱の紋大方ゐるべきこゝろにて　花ちるさと　ゆきあらぢと　ゆきあらぢと
ゆて

[illegible]人日本紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

法華経

渡来朝羅什三蔵譯又推古天皇御時聖徳太子経持法花経等遣渡小野妹子

敏達天皇六年

源のこゝろ〳〵　細　蔓上より見れば源氏をかけたり
用とをかもとゝ　盃日
いう気のあさうん
源のゐやと蔓よりの心
云せ
なよこともいとゝ
おもしろい蔓のかんこてこう
なくうんこうを出
くもひのふと源のかけ
てのまふし
いうかりともうるうん
細　ねせとも蔓の乱い絵ま
しうこゝ　元盃日おこゝひ
こゝうくかりのふこもこ
ふこさ蔓のうやい　細　歌よみ
の笑ハ一世とこうゝりれ
れ今いなくまめての絵し　盃日
いであるもや　細　蔓上の句
くれ島ハの景の入りてこ
せおれ秋のうたわもこ
月のこゝのいとうゝこを
調伏をこれていくこゝを
と細伏をこめめくといこん

盃　蔓上の句　紙　時の用こゝ
まうんこいとゝ　源氏をこ
ゝげよこゝげてこうまこ
ゝ　源のこゝ
ゝ　細　蔓上こ
ゝ　細　源のこ
ゝ　細　源の句
ゝ　出　源氏のこ
ゝ　発語の句こ
ゝ　細　源こ
ゝ　源氏のこ
ゝ　源氏こ
ゝ　源氏こ
ゝ　源氏こ

山の座主　細　義真和尚天長元年六月廿二日始補天台座主号僧綱大師

細　誕生の奥

細　三ヶ条

記内則篇云國君世子生告于君接以大牢注云接讀爲捷捷勝也謂食其母使補羸強氣也又左傳桓公六年傳曰九月丁卯子同生以太子生之礼举之接以大牢

細　産婦の産屋

細　夕方誕生

細　産婦の産屋

細　産婦の産屋

細　産婦の産屋

細　産婦の産屋

細　産婦の産屋

細　産婦の産屋

細　産婦の産屋

細　産婦の産屋

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いつまでもひかれ給へとて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

りやあるとて酒くのみ
をり給ふ日を終てそ
こなりれ行とく
葬送のうへ葬送の場のうへ
葬送の上に死人八十四の和歌
葬送八せうあるもり
流とはさるものもしられさ
いのうへ表文　相撲の門
つかの中文冷泉流より

なるなれはいとくいとうとて葬送のとうべよりて
とまつる程お葬送よりつて表をつくる
葬送の場のうへ
のうへ
の念仏のそうかどそうひろきのうへ
の念仏
所りおし陰をはいとうとのはつひさうねのうへ
いのうへ表文
をまつりちはひてあんびいとうはされとうち
ひをゆく給　葬の文きのうへ
どうとうとうとひの長忌よわくさうの
よをとうれそまつりてどうふくうへ
はをうとうのうへ
ぢをさまのあとうのうへ
表和もはぢいとうのうとうはうとの

細文選第十二郭璞江賦
云神蜈蚣蝹蜒以泛遊注云
神蜈蚣也蝹蜒行貌也
又日本記第二豊玉姫化
為八尋大熊鰐　鰐
又曰　蛇

つねのうとうと　細　保のうへ
うとうとうのうへ
葬送のうへ
のうへ
のうへ
細人ひとうとうとう

しるべ法師の詞より殿よ
ばかりつきてとまり
ぬるよは　細平生の恨
あるべきをつるよはえるを
さらぬきとうねとて
世をへてくくるかりき
仰　菱上のきまへうも
うけをうつしき様ち
しくく　細菱の命を保
の今ひのみ
よばうつ四そ　孟　三ヶ月服
也　細本書の服の名と色の
薄せ輕服と年日
われさぬぐくすくく
細保の殺さきさくくは菱
上八重服なりなさ物をと
仰　今云夫者准父母服五十
日服一年
くくりあるは　細服ありて
きくくり服をえるを
云八紫上ほぶ時代衣
のをれ薄をとくり
呼　問ありくは物見今を
の来のれはあくもそ

ら[illegible]れそ[illegible]ん[illegible]とのくくよりひて　菱上
の殊器を今後仏の
ものをさひよつけてをつくくと殺くられさ
てまくくん世をへてくくくくびけきりの
よをひてをくくて結めるをぐ[illegible]やしくさと
ぬ[illegible]ぐ[illegible]てつけくれどひをしよばめ
れぞくくまくれくを[illegible]のくくちくくをくれ
さぬくくまくくぐ[illegible]くくをめ結ぬまくとを
ぐをくくん
保の今
くぐくりあれぐくを墨衣あさまれど間で
神をあくくくを[illegible]けくくをけんくくをるさ
念珠くて行まく
海いくぐををめくくさ海さくて結墨びやくよ
保の今海
くくを結けくくをくくんまいふぐんたいくく
法界三昧普賢大士

めをくくを用のくくをくくをくくをくくを菱上
くくをいくんをいをくんをい　河　法界三昧ハ普賢菩薩の德ゝ天台五佛頂略六師作傳教
[illegible]法界三昧普賢相又大唐西院和尚礼拜詞ニモ法界三昧普賢菩薩大士
文句ニ大論秘菩薩為大士亦云兩士也　細普賢ハ法界よあくゆる不作を三昧と
もくく呼　観音ハ慈悲三昧よ作をまくくを

なくくをのの
細保ひとく形くのくれる
くりをくく何よ為の菩をつ
まくく　仰　仏奇ハ撰集
よ菩忠ゝめのくくをくを
くくをくく
仰わさのくくをくくをくを
細仏経ハ表方の経菩の
なくくをを四くるくくしま
の出来わるくく凡法物法ハ
威者菩薩の理をけくく
ヒ形くくくを菩上八文書
を徒をくくを四くくるく
くくくなくくくくをくを
来をくくく　仰　仰わくれい
をくくハ七日くくの法をく

くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを
くくくをくくをくくをくくをくくをくくを

なのめなるこゝろばへをぞよ人の中やいでゝ
みめうるはしくてゝこゝろかしこくさかしだ
人のむのこゝろけ
なりだるのさゝいこゝろ
ゆるもつゝ
ひるげさてどこかひとをまめよ
わるこゝろ
てまつり給
つまらぬ
れこまよまつりよこゝろけてきこゝ
もの給つゞ

うとくなりてこゝろ
そつぎこゝ
るこゝとばをよかげさいの姫
くこゝてのの給こんわりこゝ
のふこゝ
ばかりこゝ
みのよ
こゝ
あれとねざめがちなりよこゝ
ぎりこゝ
なぐ
ひこゝ
ふこゝ
ていこゝ

うとくなりてこゝろ
門の内位さりのふるなと
ふるこゝ
仰せよも世の中くりて
ちよこゝ
ものこゝ
とこゝ
ものこゝ
ていこゝ
ものこゝ
ばかりこゝ
ものこゝ
ものこゝ
もの

の奇文もかよ屋一表
のちらんやちろうさ
丸よさむく秋のさ来風吹
るよりかみ人の表よさ
てをそとあれケクさ
ちや時同
菊のうへたるろ 細 赤開と
そり 時 ちうけ作ちう祈
なるへ
ときあをふひの 細 ちあくの
ときく菊のそれ色よ遊人
るなるへ 時 花田紙
布のまれるく服光のう
人の紙乃文さ
さ亜ていよ帝り 称名
院出院えさときていよう
とハ出島帝りの文行物
しゆりくもくちく毛紙
をいそそうとさちるも
盃同
きこくぬるとハ 称名院出
院ニさこくぬるでいとは
秋文のさよまりりて
ちりぬと云文の同

けのうりわ
えぐよこさあ紙あびのこなかあこつけ
てさとそていよくりいまめしうもて
こまへぐやちぐ前のはまかり学ぐしぬ紙ち歩り
ちうへん
人の世をあれとくも家けさよく
時 菊よしせちり 細同
原さ決
原れ島帝の文とそのくく生拾
ろく神をとひこそや出ぐ今の花よとひ
ろへあまてそんとありづねよもいろよ
ちぐ亜ぐよ亜ぐうこ結柏
ちうのまるるるぐ出ぐ
うこつれるのはとうひやとんこ
たたんまこ
とてくさとちひ学ぐぐこむもいて
行くく人のはなのくらぬべくこと学こ
秋

さて源の出方よりもさくこに始ぐ
ぬしぬ紙ち文の同く源御島帝出紙ち文分う
行前のうくくさとや 細 文の同く人の歌ハ同よくくさ学ちかれいこのりくた
人の世を 物 蓼のうとれ島帝の公男よ中てもち家帝ちよ源の神の上ひやくるくこの紙
くく今のちよひのあまりくそん 細 是まて文の同く 発 とひのくもいくとかひ
ぐこひのへどりくはこもあまろ川もぐ出まり仰行くの表よくくのんく
ちくよ亜ぐうう 細 とのはなはあくりのうはいちくうくされたくうちくくくくと
れるのはくふくひやと 細 とのはれ前くくとろ物和の帝よ物くる人のくくて中
て兵くくふくひ文とく
ちくくさくるをさぐくと 細 蓼上ハ宝葉ちてくてあくう
盃物の和れ云くくくと
細 ちくくよこたも帝の是よ出
まくとくくくく人俗よ
てはへき和をとはくく
くくく
奇文の出くよまり
細 と奇文い一位の祈事
なりよ依ては縁安くり
文をまくくもくくまも
今とはのあくひ紙く

細 蓼上ハ宝葉ちてくてあくう
ちぐ人いくてもくくてもくうべくく
よこそハ和くくやうくくくんとうやくくい
くくけぐやうくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それハ世渡とさすらひしまくしの様をどうてまうねゆ中ハ文くうてもあるまうきすす
なれど式様の姫君ハつ重ねき物うくゆ行くのをるすをどとうーさおうくぬ面よー紙
本と巻ふをあうくのりのとハくーあうるのよるりつもうるゆあいくとえやと
ゆうりあう

わくそてこの 細下の白様文 侍

ようけてゆうりつれすくて
紙ふうくうーし 仲式部蔡
の姫備ゆ様の姫きくよ
姫へすふぐきすよいわ
うねくれ力ー姫備ゆれう
なれい自姫よをかをこ
りうくう紙 細 後月いつも
ゆ紙ハ 引多後叶ー
何後月ゆを ゆ紙ハ
ーくとうく純ひうれう
ハるうき

仲てなどのいくめて 細 ふとうき内ふも原く
くうけてくー弟紙し
ゆくうう山を 細 光ふうふ
の物し 紙多紙 大内山は
大内のすし 大物の直原
ゆうくとえ又ハ幸ふ院

わくそてこの 細下の白様文 侍
ハあやくへあれどいけを ゆ紙の方とうくうう
てなどのふくめてくう紙つるゆねうま 細仏 侍 ハるてけ
ゆあうりて ゆ紙 様しうくー表ようひうく
ゆくうーし ゆ紙 様の流
ゆくうーし ゆ紙 様の
ゆくく 物の表方
紙ぐうるよ
しぐうくう空をいぐくそ ゆ紙
多すくづきて ゆ紙
ゆくーくーしなふ

仁和寺の大内山とうあるよりーますゆ内慌中納言通俊物侍とうありて八月雲の九月
よーう学なれと大内山とむへまりのいりうく紙ーまをゆて今 侍式の物ふりくこう
おりをうよりまくうくの多つくし式二紙いつまうくすうくし 暁月 紙物二巻
うやいくく 細 色ゆーいうつるぐうりもそうくゆー思ふをうやハうせゆうふいうを
ふのるをゆやりすれもふの中というも多世紙りーゆをえうせゆとうふ 暁盃 月
紙ぐうりよ 細 養上よをとれゆーうて原のうー
うりゆ面ゆうもいゆすて原のうーまんとゆひやーうくく原の方自紙
と養の姫備のやうよ学し紙れハ様のそれよとうゆて在ゆーまう
なるよくうつるくも
細 侍のふくくのすと
ゆをゆうーを紙し立紙れ
ふをゆ思ハなどハをそれるる
ふをゆ思ハのあるゆと 暁月
下よ紙ゆるふく 暁盃
つくうき人ーすゆし
男様ゆハ為達なーのと
どうくの紙く侍ゆうくき
人くをそれうハうれう
ようてくうくく月ゆまて
りのー 細盃月 紙あやよ
くなるうくよんのうゆう侍
のふを紙紙
紙ゆへうくをくて 細 侍 紙
ゆの紙くを世界の文ふ

ゆくうくよけてくをゆうりいうくくを世な
ゆる紙ーつくくひくーくくをいゆくそれね 侍ゆくくくひくーくくー
ゆをし紙ーくくゆ人のいんをゆうりーれゆくーく 細様の姫君ゆくくく
ゆくくべくゆうりくくのあくくれくをくーく紙
くくぬくうれくくくくくくよかくくけくもくくを
めべくくくくくくゆくくくくくくくくくくくくく
人ゆくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
をいくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

よひのつりよはさ
ものさ（細）
仲文の詞
なほ人の
なほ人の
傷よりもなほ
しかはしたまへ
とりみと表も言
なせり

とりて
物の上の
この
とうたへ

さまひてごとひのつりよはさ
しをあるまぢきこと
りなりわざよ作りとまりてひらこと
せなり
うひまへ
めはねば（腸）
ふまとこ
をえまいり作ねなりこのつるで
みはざやうよ（花の上の詞）
いくぐくも作まぢき花の
られまつ
ひまめ
ほのさ

（菱）

（細）

（菱の花）

（盃）

（細）

（相）

（盃）

（細）

（細）

ぢ川はのさめなきさい世のさがとこ結
へまりまぐ
どひまぢ
をまる結
ぢんとこ
作めぬ
え結
ふ漂
なるぐ
（細）
ぬ
うとれ
うとれ
つまり

（細）
（盃）
（細）
（花の上の詞）
（細）
（細）
（細

ふをうちよせ
原の今日おもふをうちの
のうまうえん屋もろこ

うちとけかりまする
細原ハ菱工の方より打と
けてまいりまいらせうり
しと盃原と菱とのあい
さつ
さつもつねよハ　細　さに
ていをつかまつりさつとあを
ひらし　仲　あいをあをいら
いをうんとやいをうい　秋
むい二ほこいらいをさる
とをのうんく
けをこそんかりそこ
細　今ちりいらふくんかそ
きうしかをうしく　孫

まぢさんとまちまつれがさりともも
のつくよい主ちせをたそやなどみ
大臣のんまいぐ
ぐまあ作ちなおむ
ちぐぐ
女房なぐ
とりひくいく
ひうちをうぐ
月の名所なう
なんとつう
とハ作ぐ
とあいをぐの
ぼそきゆの
盃原の迎菱
ぬいとあさ

よんりそき々へそく
ちくくよいうちりもし
秋　大臣も菱の後生のは
原の作をおりしをを
のすをを原もを作ら
作し原の菱のこれ作る
ようちをあをくうし
ちをを
ちく今ハ作とれをてう
細菱工のおをーかく八神の
のんつくとをえもをとと
ふを　盃弄日
雲原のしのーさんちそ
細菱工も先作原も今ハ
まを作ハ原のをあけのこ
ちくく　弄盃日

ちをんくこ　細ちくの
あをりかちまを能備
し作とを

を作なちくれ
くよをひをいをいをい

[illegible]

細 文集第十二 長恨歌
鶯奪屋冷花重舊枝故含衣誰與共 哭月
哭長恨哥 唐本ニハ多分
既翠ノ衾寒誰与共と
あり 舊枝 古含衣とあり
ハ和字ノ氣しやゆゑかつ
すー又云古文真寶ニハ戴
翡翠ノ衾寒誰与共さ
白氏文集第十二唐本と
勘処 旧枝古含衣誰与共
なり叶ニ原氏心也 永正七七
ケさ 弄 原氏の氏家を
あくれあくさんるくに
よ七縄ととくるく 細 原の
んの切るる方より之原の
と位於那くなどと今くく
彼蓼上の縄ともさこそあ
くくれくくくひつくんと
此氏原さと花名ケさ家
よりんの千と引と氏のの
んハケさ縄の方より思を
きくう侍く氏家不計既

やまとのもとうきけげしくさうみをまる 真
みもさ面ぐめづしさ面ようさまぜ原
つりこのれ原のよ紙とりの原 細
めれもやと変とありぐてゐぐ
めれくそぐ人 細 芳花
きりくべしふ 久方の本歌の句
くりみりやゆ 原与
けさあぞいぐれしさわ家のあく
ぐれくさんるひよ又霜の花さろくあ
ふ原与
えるくてちつりめるこ友のつ面
くくくくひいくあわるん和ひの花
くべしくれそぐ仕りえよりらんぐ侍 花よの侍 花之文よ方の文の文 侍

声をさこそわくくもりもけさ家よりん家そくれ
ゐくくて 細とこ友と家よ月久 去家の楊も花よ離れくう河とりひやりくり氏二首ハ
久集の二首を引よてくりる方氏月ましてて逆懐し 仲 左松 旧蓼の久くく人一見東伝
あるくり長恨哥よりつくれくくひの方のくくく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

葵

孟篇（ツイ）変　篇（月）築　篇と
うけ勝負よもうく
長菴老人は流よ篇つる
とい伝の篇の字みくを
書の中ってもくく又
付ふう敷と勝負ふう
こや

はがくるるうう年月
作紫のゆきまるき紙は男
のたは世がいとうちう
うくおま姫のうてひ
のふうとうき紙は世られ
きとのきういうきまひ
しくまのひうくくとは男
女のうくひるべきにと
源のうつく　お彩松ちまひ
人のうどめ　しまいうるべきるる
らねしてねよもう直紙
ひしゆく
ゆきう紙りぬわうきり
お先は彩松のけのうく
作は伝源の二条院へうり

などやりくうてううう
まど・みを（第の）ちう結うぬけしきりづれ
ぐりうきくにぐこうるうよて碁うう
へんづきるぐしう結て見ぬうし結ようう（第の結の）
ん（かうう伝）のらうくぐ（伝）ものうどやうづきうるき
きうれぐこの中みまりてきそうを
ちいぐ（第の）ぬ・ぬ（第の）ぬ・ぬ（第の）ぬ・ぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
河支の子の餅ハ五くせ。
三日東の餅ハ二くなるれ
ば新くまいわでとそ
[illegible]
細南座のまぎれ[illegible]
のうふかなるべし。亥の日
立日なれハ
はなあいぶ[illegible]のうらめハ日
[illegible]
細元も惟光とり合てア
せいまくしーさ日との給
しとうけうとり〻が愛敬
物〻惟光新枕のんとい
つゝ[illegible]
[illegible]細 三ケの[illegible]
の十ケ[illegible] 三ケ一ケとも
[illegible]説あり[illegible]
別まあり 新嫁聚の三
日まあり新餅を彼が
[illegible]餅を
[illegible]人の死せ[illegible]
[illegible]

とめて[illegible]
[illegible]
[illegible]

うこのこと　河香盛匿
或、香粉匿　香盛のはこ
ばかりの調度、請香を
入る器、仰梅の枝の巻よ
りいくさるると一段こと
ど渇り三日、和俳諧
とりてまゐらんあし
名のやうにさうなり

さてこよはいさうのど
細　ろ御よき但し今は
わざろうすいしいふて
るすまへきれ花まは
よ白と切く所るえな
とりむ仮あり又一段を
別よろうとし
ちもまで仮し　おなじ
さいわうまで花ども弁よ
惟光ら陳でいえ段と或
よりもまで仮じしは
弁ら惟光への色書くとも
さやうのまへりまでと
ふんへあさうるすいも
ちらどとろへ

うんと少りひやりあくいふうくひてしすあ
の弁（べん）といふをよびおてこれものびてまいく
せまへとうそこのこと紙をいれ
うふうふれまくくごとよまいくもべき
いそひのれよくるあるうこあざりな
どいへいあやしとそんどあさなうことはまざ
るくもぬるのとそとれべまくよいま
はさうりどいまをまへうとまで仮じし
とうわくくうくうくう

みるまゝにうつるの　何人
の影も秋とやどれるみづゝ
秋とやどれるみづゝ
なくよ　お紫とあるよ
よりてそうろう式文
紙と面白し
伊勢物語
細殿月夜に養上をなく
さまのしるうりにいとを
くばりをひ給へども
殿はさもこひうり給ふ
元勝月夜の内侍参り
なくみうりを殿はの内
寮のかり陪服を裁縫
もろ所くもろくもさんの
女のなり織なり

[illegible]
[illegible]
[illegible]

人よいまゝめのあつ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

いとうつくしうもてはやされ給ふ

衣架の御ぞ

細 衣架也 衣架也 明礼記内則ニ男女不同椸枷法云 掉此謂ニ衣架ト河 梶架 延喜式御衣架也

[illegible]

[illegible]

[illegible]